

日本山岳写真協会 選抜展「それぞれの山」

日 時／平成25年2月14日(木)～20日(水) 会 場／ポートレートギャラリー

日 時／平成25年3月5日(火)～10日(日) 会 場／京都市美術館

1	初冬の燕岳	池田栄子
<p>小屋閉め前の登山はこれで7度目、今年もこれが最後の撮影と思うと心が引きしまる。新雪に足をとられ、アイゼンがうまく雪をかまず、四つん這いを何度も繰り返してやっと頂上へ、ご褒美は翌朝に！新雪に包まれた山が、岩が、撮ってくれと言わんばかりに私を呼んでくれた。</p>		
2	光さす谷	岡孝雄
<p>太平洋と日本海の分水嶺を形成する谷川岳の天候は変わりやすい。朝方の好天もすぐに雲が湧き霧が出る。この気象変化が創り出す光と影。光が動き見事なコントラストで、秋色を浮かび上がらせた。</p>		
3	初秋の装い	小川修
<p>尾瀬ヶ原に秋の訪れは早い。9月の声を聞くと、もう秋の気配が漂ってくる。ヤマドリゼンマイは敏感でいち早く黄色に染まりだす。灌木のナナカマドやウルシは紅くなり、池塘のヒツジグサは深緑から赤味を帯びて水面を飾る。いつの間にか湿原は草紅葉と化している。白樺の黄葉も彩りを添えて秋盛りへと急ぐ。</p>		
4	雲湧く燕岳稜線	輿水忠比古
<p>陽が昇る。雲は躍動し稜線を駆け上がった。目まぐるしく変化する雲間の景色に、一瞬の光景を見た。午後。雲に包まれていた稜線が見え隠れしてきた。突然、上空の雲が切れ、雲表の峰々に陽が射した。大自然の驚異、感動の瞬間だ。日没が近づく。再び谷間から雲が湧き上がり、稜線を越えた雲が夕陽に映えた。</p>		
5	巨人の森	鈴木進
<p>真っ青な空を仰ぐモンスターたちの息遣いを感じる。生命あるものすべからく消え行く中、天と地の素晴らしい共存が永遠(とわ)にと願う。思い起こせば50年前、何度かスキーで訪れた時に会ったモンスター群。7年前から冬季の撮影にこだわり続けている。標高2,307m横手山一長野と群馬の県境に位置する。</p>		
6	秋色の北穂高	中山眞吾
<p>穂高連峰は、北アルプスを代表する山域で秋は短い。紅葉を期待し、槍平から南岳に入った。三日目によく北穂高岳が姿を現した。心躍る瞬間だ。しかし、稜線はなかなかガスが途切れない。上空に寒気が来ているのだ。</p>		
7	山の不思議	瀬戸口隆司
<p>山では、きれいな景色に出会うことができるばかりでなく、非常に不思議な現象にも出会う。ここに紹介するのは、「暈」、「3つの太陽」、そして、「ブロッケン現象」である。いずれも、空気中に浮遊する氷結晶や水滴で太陽光が屈折したり、回折したりしてできたものである。</p>		
8	烈風	名取洋
<p>4月ともなれば山麓では春の便りが聞かれるころ。ここ八方尾根は、まだ冬の様相。前日の風雪が止み、白馬三山や五龍岳、鹿島槍ヶ岳は新雪に覆われた。快晴となった一方で烈風が吹き荒れ、稜線上には飛雪が舞っていた。</p>		
9	晩秋の尾瀬ヶ原	長谷川洋一
<p>至仏岳と燧ヶ岳の間に位置する尾瀬ヶ原。湿原や大小の池塘の数々が美しい景観を造りだしている。春から夏には、ミズバショウ、ワタスゲ、ニッコウキスゲなどが群落を成し花を咲かす。秋の紅葉期には、シラカバ、カラマツ、草モミジ、羊草と、折々にもたらず風景は見事だ。</p>		
10	夏山の始まり	畑島淳
<p>近年、温暖化の影響が「梅雨明け10日」とはなりにくい。しかし、昨年、空気感のある澄み渡る1日に遭遇した。夏山の始まりを告げる早咲きのハクサンイチゲやコバイケイソウ、そして雪渓、更に稜線上には積乱雲。双六岳周辺の「夏山の始まり」を表現し、組んでみた。</p>		
11	水温む	前羽光雄
<p>新穂高温泉から蒲田川左股をわさび平へ。四月ともなれば、北アルプスの山間(やまあい)でもブナ林にも春の息吹が感じられる。厳冬期には、人も寄せ付けない厳しい自然環境にさらされる。沢には雪崩の爪痕、その大きなデブリを幾つも越えて行かねばならない。</p>		
12	峡谷の流れ	藤田邦子
<p>台高山脈は日本の最多雨地域であり、大台ヶ原日の出岳へと続く大杉谷は、豊富な水量が深く切れ込んだ険しい滝や神秘的な淵を生み、黒部峡谷と並ぶ秘境である。喬木が覆っている豊かな原生林は、大杉峡谷の山域の深さを、また数々の名瀑は、山奥から始まる小さな水の流れが生物の命を支え、生命の源となる自然の貴重な恵みの水源を実感する。</p>		
13	初冬の立山	舟橋恵子
<p>錦に輝く秋が過ぎると山はひっそりと冬支度を始める。まもなく厳しい冬がやってくる池塘は、雪に閉ざされる前に一瞬美しく輝き、夏可憐に咲いたチングルマは、最後の穂や葉に霜が降りそそぐ。美しく錦に輝く秋の山は素晴らしいけれど、冬支度をひっそり始めた山の哀愁に私は心惹かれた。</p>		
14	大雪紅葉	道健一
<p>9月も半ばを過ぎると大雪はもう秋真っ盛り。日本一早い紅葉である。最高峰・旭岳の山裾はカムイミタラ(神々の遊ぶ庭)の名に相応しい。ナナカマドの赤、ダケカンバの黄と濃い松の緑の間に池塘が光る。裾合平まで来るとチングルマの群生である。一面赤い絨毯のような葉の上に真っ白な綿毛が並んでいる。</p>		